

## 赤穂下水管理センター消化ガス発電事業の開始について

2024年6月3日  
Daigas エナジー株式会社

大阪ガス株式会社（社長：藤原正隆、本社：大阪府中央区）の100%子会社のDaigas エナジー株式会社（社長：福谷博善、本社：大阪府中央区、以下「Daigas エナジー」）は、赤穂市上下水道事業（以下「赤穂市」）と、「赤穂下水管理センター消化ガス発電事業」（以下「本事業」）に関する基本協定を締結し、再生可能エネルギー固定価格買取制度（以下「FIT 制度」）による事業計画認定の取得や、発電設備の建設を進めてまいりました。2024年6月1日から本事業を開始しましたので、お知らせいたします。

本事業は、民間の資金とノウハウを活用した民設民営方式による下水処理場での消化ガス<sup>※1</sup>発電事業であり、Daigas エナジーが赤穂市から借り受けた下水管理センター内の事業用地に発電設備を建設し、同センターで発生する消化ガスのうち余剰の消化ガスを活用してバイオマス発電を行い、FIT 制度を利用して20年間の発電事業を行います。

Daigas エナジーは、「D-Lineup」<sup>※2</sup>を中心に、エネルギー会社の強みを活かした低・脱炭素ソリューションを提供しています。その中の「D-Bio」シリーズは、消化ガスなどのバイオマスの有効利用サービスによりCO<sub>2</sub>排出量および廃棄物の削減に貢献します。

Daigas グループは、2021年1月25日に「Daigas グループ カーボンニュートラルビジョン」を発表し、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた技術・サービス開発を行い、お客さまとともに地球規模での環境保全に寄与する取組みを推進しています。

2023年3月9日には「Daigas グループ エネルギートランジション2030」を発表しました。Daigas グループの活動を通じた社会全体へのCO<sub>2</sub>削減貢献と、Daigas グループにおける国内サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量削減を目指したロードマップに基づき、着実なCO<sub>2</sub>低減を遂行していきます。

※1：下水汚泥処理の過程で発生する消化ガスは、メタンを主成分とする可燃性ガスであり、都市ガスの半分ほどの熱量を持つバイオガスです。再生可能エネルギーの中でも下水由来の安定的な都市資源であり、地球温暖化対策のひとつとして有効利用が期待されています。

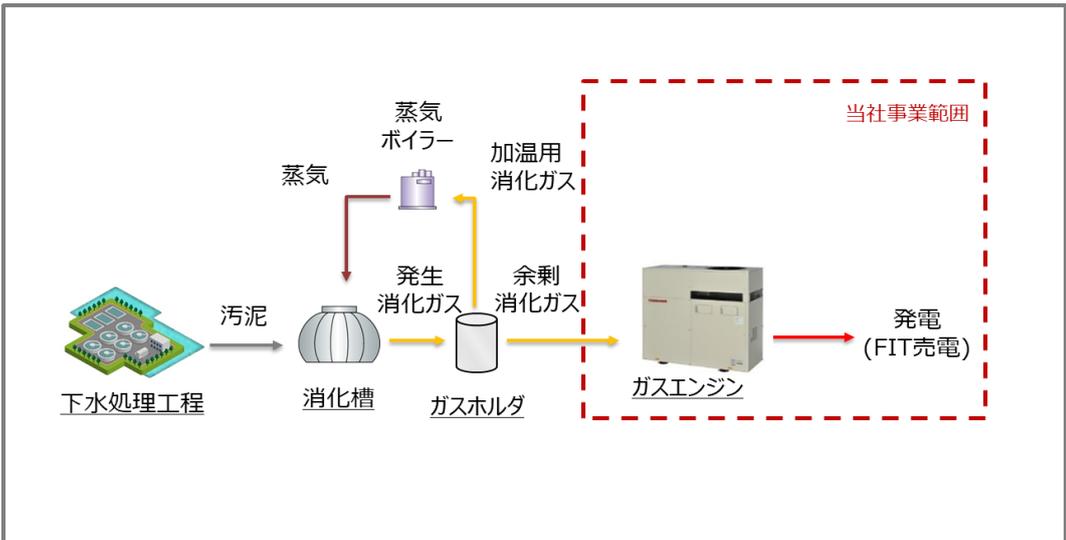
※2：企業の様々な経営課題に対し、Daigas グループが手掛ける広範囲な事業の経験や知見を活かし、安心安全なエネルギーと幅広いニーズにお応えするソリューションです。「D-Lineup」の詳細は、以下 URL からご確認ください。

<https://ene.osakagas.co.jp/product/dlineup.html>

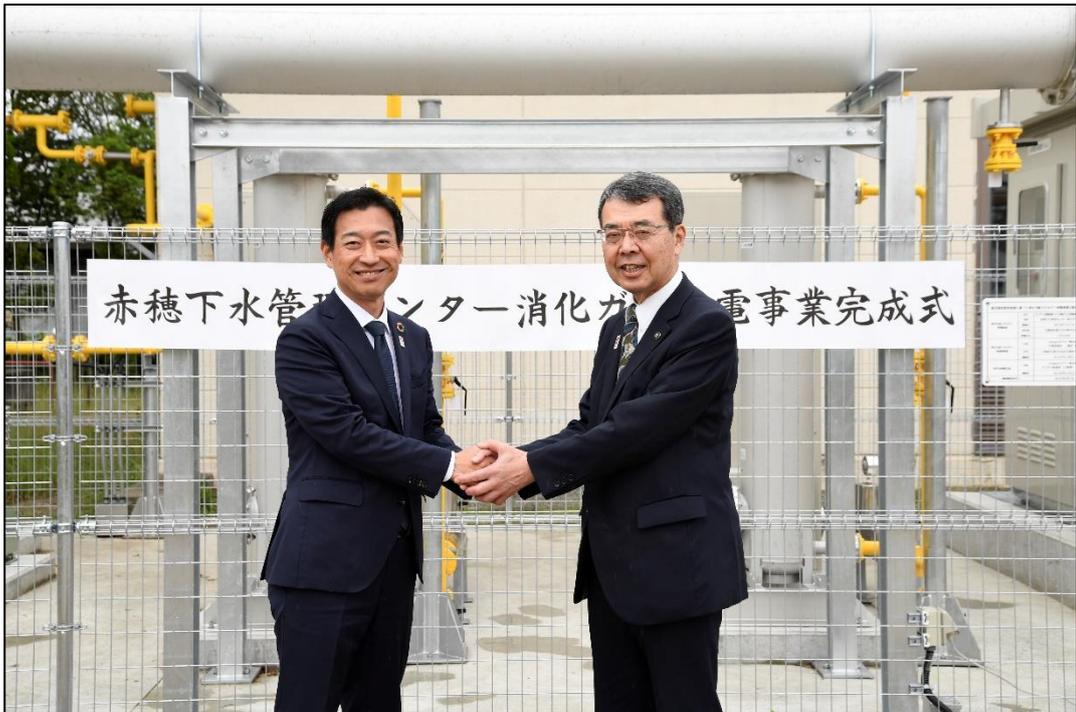
<赤穂下水管理センター消化ガス発電事業の概要>

事業名	赤穂下水管理センター消化ガス発電事業
運営方式	民設民営方式
事業場所	兵庫県赤穂市中広 1862 番地（赤穂下水管理センター内）
発電設備	消化ガスエンジン 24.5kW×2 台、発電容量 49kW
年間発電量（想定）	約 34 万 kWh／年（一般家庭約 80 世帯相当）
発電事業期間	2024 年 6 月 1 日から 2044 年 5 月 31 日までの 20 年間

<当社事業範囲イメージ>



<発電事業完成式の様子>



左から、Daigas エナジー 都市圏営業部 樋口部長、赤穂市 牟礼市長

以上